

<第75回調査>

2015年08月24日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2015年08月11日(火)13:00~2015年08月18日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は829件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

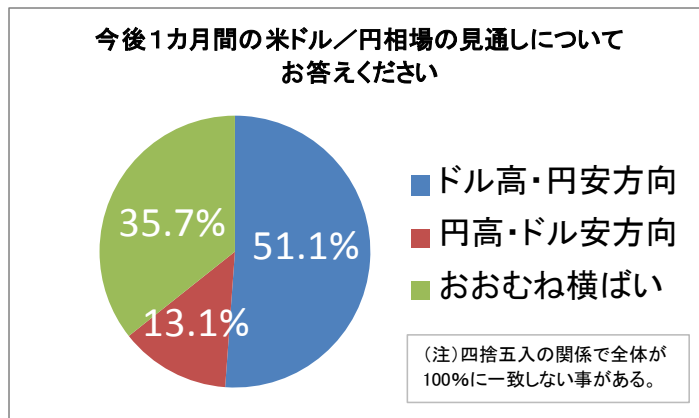
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第75回調査結果略報:ドル強気予想が拡大】

問1:今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

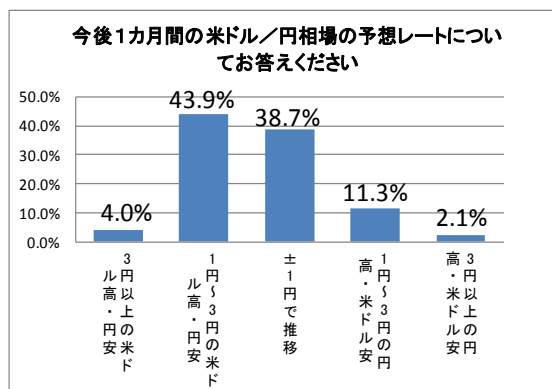
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が51.1%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は13.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+38.0%ポイントとなり、4カ月連続でプラス幅が拡大した。調査期間中の米ドル/円相場は、一時125.20円台に上昇したものの、中国の人民元切り下げを受けて世界的に株価が下落する中、123.70円台まで下落する場面も見られるなど神経質な値動きであった。FX投資家らは、そうした混乱の最中にあっても米ドル高・円安の見通しを強めた事になり、米ドル高期待の強さを改めて感じる調査結果と言えよう。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2:今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が43.9%と最も多く、「±1円で推移」と答えた割合が38.7%、「1円～3円の円高・米ドル安」が11.3%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は4.0%、「3円以上の円高・米ドル安」は2.1%であった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安方向に傾いており、問1の結果と整合的だ。調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)が124.50円近傍である事と、「±1円で推移」と「1円～3円の米ドル高・円安」の合算割合が82.6%に達した事から考えて、FX投資家らのおおよその想定レンジは123.50円から127.50円前後と推測できる。今後1カ月間で年初来高値(125.853円)を更新すると予想する向きも少なくないようだ。

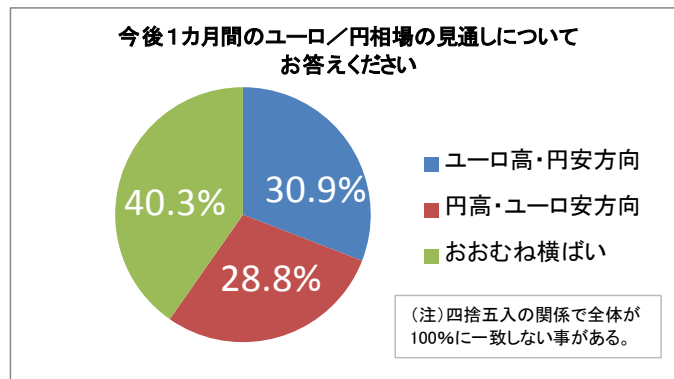


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

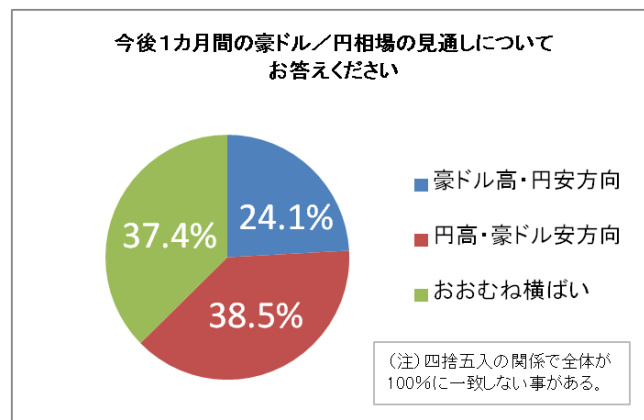
「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が30.9%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が28.8%であった。この結果、**ユーロ/円予想DIは+2.1%ポイント**と、9か月ぶりのプラスDIとなった。調査期間中のユーロ/円相場は概ね137~138円台で推移したが、中国人民元に絡む混乱の中で138.871円まで上昇するなど堅調ぶりが目立った。そうした動きが、FX投資家のユーロに対する信頼感を回復させつつあるのかも知れない。これまで、ユーロ弱気一辺倒だった投資家マインドが変化し始めた可能性があるため、次回以降の調査結果に注目しておきたい。※過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が24.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は38.5%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは-14.4%ポイント**となり、前回(-18.9%ポイント)からマイナス幅は小幅に縮小したが、3か月連続でマイナスDIを記録した。調査期間中の豪ドル/円相場は92円台後半から一時90円台前半に下落するなど弱含みで推移した。人民元の切り下げが、中国を有力な輸出先とする豪州の競争力低下を招くとの見方が豪ドルの重石となった。こうした見方に加え、中国景気の減速懸念から資源価格が総崩れに近い状態となり、世界的に株価が弱含んだ事もFX投資家の豪ドル弱気予想に繋がったと思われる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。

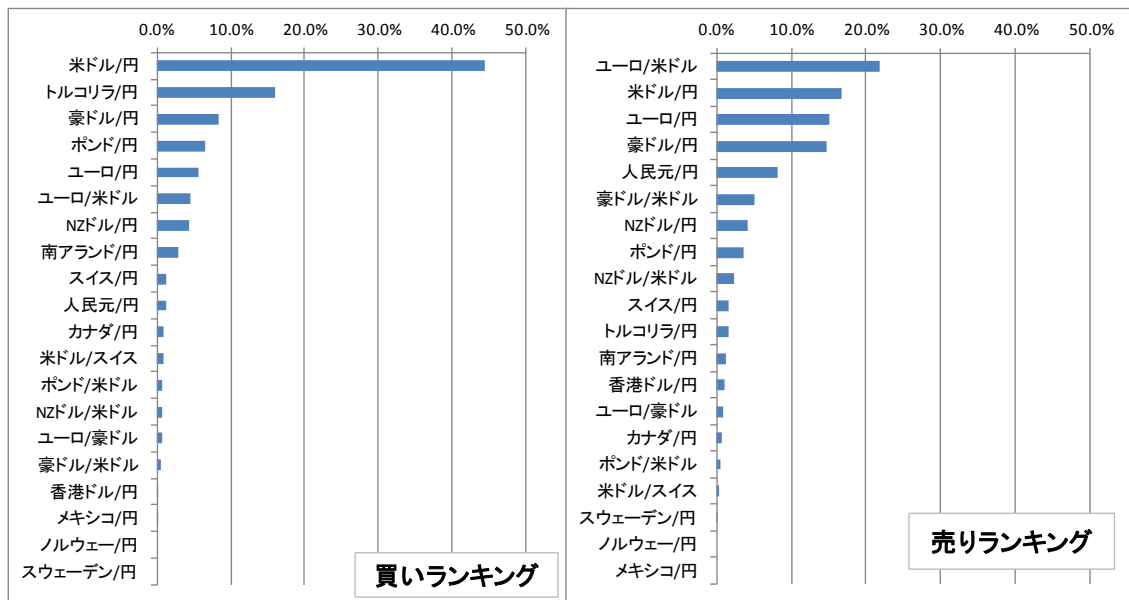


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が44.4%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位トルコリラ/円(15.9%)、3位豪ドル/円(8.3%)、4位ポンド/円(6.5%)、5位ユーロ/円(5.7%)、と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位ユーロ/米ドル(21.8%)、2位米ドル/円(16.8%)、3位ユーロ/円(15.1%)、4位豪ドル/円(14.7%)、5位人民元/円(8.2%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が35回連続で1位となり、回答割合では2位以下を大きく引き離れた。トルコリラ/円の2位も維持されたが、3位以下はポンド/円が4位に順位を落した一方、ユーロ/円が6位から5位に順位を上げるなど、順位にやや変動が見られた。また、「売り」で注目の通貨ペアは12カ月連続でユーロ/米ドルが1位となったが、回答割合は前回(25.4%)から低下し、ユーロ/円は2位から3位に順位を下げた。問3の結果で示されたように、ユーロに対する信頼感回復の兆しがここでも見られた。なお、「売り」で注目の通貨ペア第5位に人民元/円がランクインしたのが特徴的だ。対ドルでの人民元安誘導が今後も続き、人民元/円も下落するとの読みが働いたようだ。ちなみに前回調査では、人民元/円は「売り」で注目ランキングの10位であった。



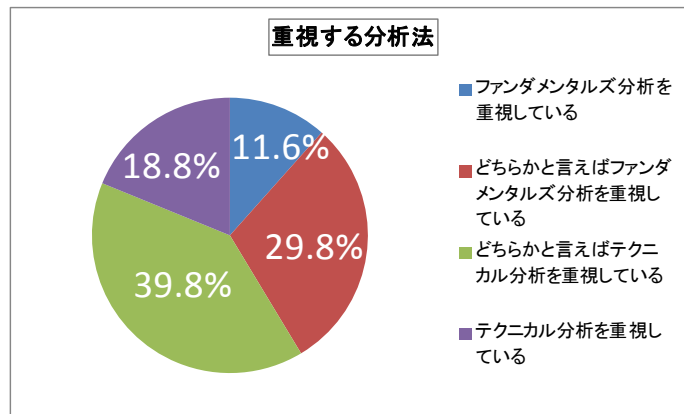
※これまで毎回更新してまいりました【FX取引の際の取引保証金の額】【現在の[実効レバレッジ]で最も近いもの】【一度に注文する注文数量で最も近いもの】に関しましては、書籍「外為白書」(10月頃刊行)へ掲載予定です。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

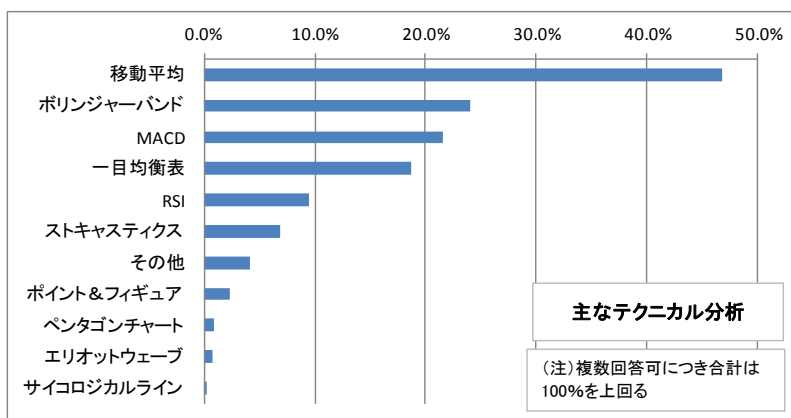
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?(ひとつだけ)

今回の特別質問項目として、「あなたはFX投資をする上で、ファンダメンタルズ分析とテクニカル分析のどちらを重視しますか?」と尋ねたところ、「どちらかと言えばテクニカル分析を重視」が39.8%と最も多く、「どちらかと言えばファンダメンタルズ分析を重視」が29.8%で続いた。テクニカル重視と答えた合算割合が58.6%を占めており、ファンダメンタルズ重視派の41.4%を上回った。取引スパン(決済までの期間)が比較的短いFX取引においては、値動きそのものを分析して予測に役立てるテクニカル分析が重宝されがちという事だろう。



問7: テクニカル分析では主にどれを活用していますか? (いくつでも)

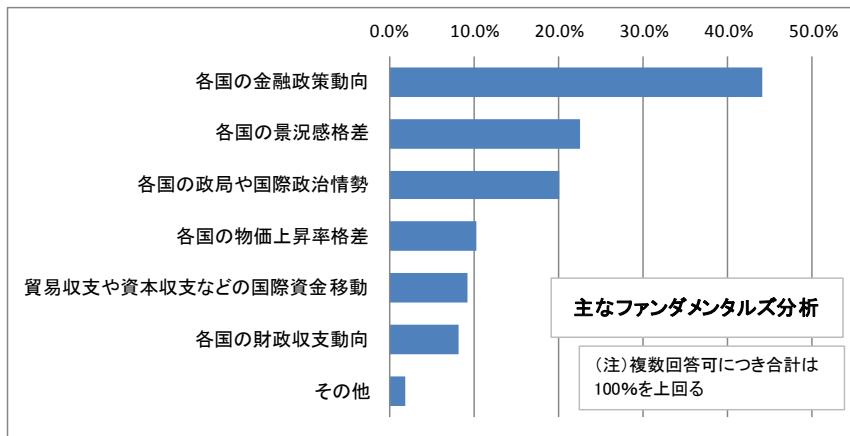
「テクニカル分析では主にどれを活用していますか? (いくつでも)」と重ねて尋ねたところ、「移動平均との回答が46.8%と圧倒的に多く、続いて「ボリンジャーバンド(24.0%)」、「MACD(21.6%)」「一目均衡表(18.7%)」などが上位にランクインした。「移動平均」は相場の方向性を掴むためには欠かせないテクニカル分析ツールであり、チャート上の移動平均線はトレンドを視覚的に捉える事ができるという長所がある。短期スパンの取引にはトレンドフォローの姿勢が必要であり、そのトレンドを捉えるためには「移動平均」が重要と考えている向きが多いという事だろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問8: ファンダメンタルズ分析では何に注目していますか？(いくつでも)

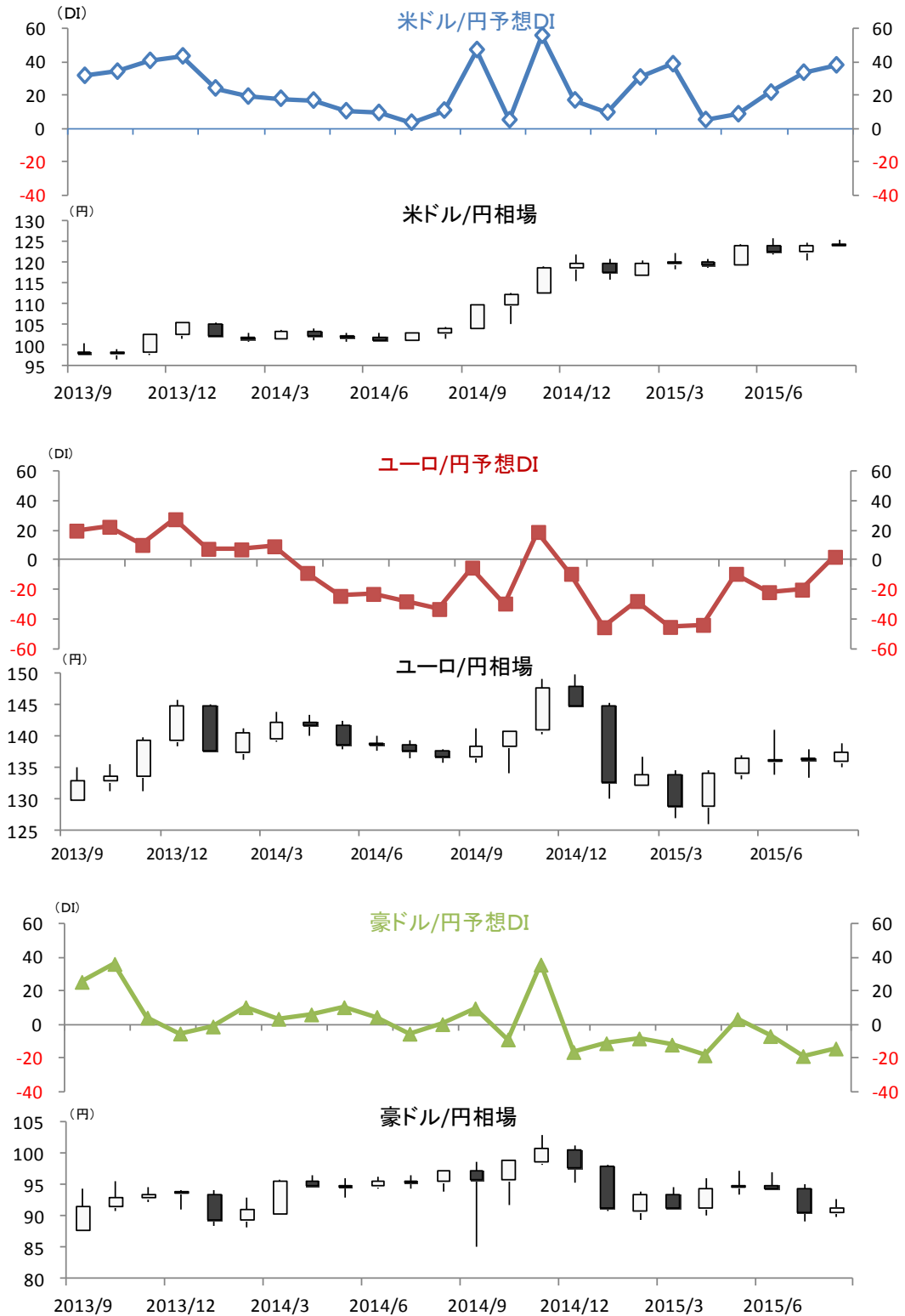
さらに続けて「ファンダメンタルズ分析では何に注目していますか？(いくつでも)」と尋ねたところ、「各国の金融政策動向」と答えた割合が44.0%を占めた。以下、「各国の景況感格差(22.6%)」、「各国の政局や国際政治情勢(20.0%)」、「各国の物価上昇率格差(10.3%)」と続いた。米国や英国の利上げが近いとの観測が広がる中、FX投資家の視線が「各国の金融政策動向」に向くのは自然な流れと言えよう。一方、そうした先進国の金融引締めが、新興国の経済悪化を招きかねないとの懸念がくすぶる中、「政局や国際政治情勢」に比較的多数の回答が集まった事は非常に興味深い。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第75回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2013年	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
2014年	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
2015年	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com